

# ジャンボタニシの **秋冬** 対策

～早めの対策が肝心です～



来年のジャンボタニシの被害防止には、稲を食害する **ジャンボタニシの成員の越冬を防ぐ**ことが効果的です。

## 1 土が固い時の耕うん（秋耕）

土が固い状態での耕うんは、効率的に成員を破碎し、殺傷に有効です。

- ① 作業速度は**通常より2～4割遅く（時速1.4km以下）**
- ② ロータリーの**回転数は早く（PTOギア2速）**
- ③ ほ場全面を残さず耕うんする。



## 2 厳寒期の耕うん（冬耕）

ジャンボタニシは寒さに弱いため、厳寒期（12月下旬～2月）に耕うんすることで、掘り起こした貝を寒気にさらして殺します。

- ① 複数回耕うんする場合は、1か月程度期間を開けて耕うんする。  
※ 掘り起こした貝を土中に戻すことを防ぐため

## 3 石灰窒素の秋散布

石灰窒素には、貝を殺す効果があります。  
水温15度以上の時期（概ね10月中旬まで）に散布します。

- ① 湛水状態（3～4cm）で数日間放置
- ② 石灰窒素を10a当たり20～30kg散布
- ③ 数日間放置して自然落水  
※ 魚介類にも毒性があるので、水は水路に流さない。  
※ 翌年コシヒカリを栽培する場合、粘土質のほ場の場合は、基肥窒素を10a当たり1kg程度減肥する。



不明な点は、千葉県夷隅農業事務所まで御相談ください。

TEL 0470-82-2213（改良普及課）

夷隅地域農林業振興協議会

（勝浦市 いすみ市 大多喜町 御宿町 JAいすみ 夷隅農業事務所）

# ジャンボタニシの **春** 対策

## ～浅水管理と農薬の適正使用～



稲を食害するジャンボタニシの被害を減らすためには、移植後の対策の徹底が重要です。

### 1 浅水管理

ジャンボタニシは水深が浅いと活動が制限され、水中でないと摂食できないため、浅水管理での食害防止が基本です。

- ① 代かきを丁寧に行い、ほ場を均平にする。
- ② 移植後は、**水深を4 cm以下の浅水管理**  
※ 移植後3～4週間（水稻5葉期）まで浅水管理
- ③ 除草剤散布後、1週間程度は水深3～5 cmを維持



### 2 薬剤散布

以下の登録薬剤のいずれかを散布し、殺貝や食害防止を図ります。

- ① 湛水状態（水深3～5 cm）で、発生状況に応じて適切に散布
- ② 薬剤散布後7日間は落水やかけ流しをしない。

#### 【登録薬剤】

殺貝効果：スクミノン、ジャンボたにくん  
スクミンベイト3（※有機JAS規格に適合）  
キタジnP粒剤

食害防止効果：パダン粒剤4

※ 登録薬剤を使用し、必ず**使用時期、使用方法、使用量、使用回数**を遵守する。

不明な点は、千葉県夷隅農業事務所まで御相談ください。

TEL 0470-82-2213（改良普及課）

夷隅地域農林業振興協議会

（勝浦市 いすみ市 大多喜町 御宿町 JAいすみ 夷隅農業事務所）